

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携15周年記念 親善訪問団のノボシビルスク訪問について

札幌市とロシア・ノボシビルスク市の姉妹都市提携15周年を記念して、同市で行われる記念事業などへの参加や、今回新たな試みである「サッポロウィーク」を開催するため、札幌市長をはじめとする訪問団52人が6月にノボシビルスク市を訪問します。

1 姉妹都市交流の歴史

札幌市とノボシビルスク市は、昭和49年（1974年）に開催された「大シベリア博」へのノボシビルスク市の参加を契機として交流が始まり、以後16年間に渡って、両市長の相互訪問をはじめ、市民レベルにあっても芸術、文化、スポーツ、青少年交流など多くの分野で着実に友好関係がはぐくまれてきました。このような市民交流の活発化を背景に、平成2年（1990年）6月13日、姉妹都市として提携することを盟約し、両市の姉妹都市提携が実現しました。

ノボシビルスク市は、旧ソ連時代から音楽、バレエ、演劇など優れた芸術・文化を誇っており、本市との間で多彩な芸術・文化交流活動を繰り広げられているほか、学術・青少年・スポーツなどの分野においてさまざまな交流が展開されており、現在10団体が友好団体提携を、6つの学術機関が学術交流協定を結んでいます。

2 主な訪問者（52人）および訪問日程

- (1) 市長訪問団（4人）..... 市長ほか
6月22日（水）～28日（火）
- (2) 議員訪問団（14人）..... 市議会副議長，市議会議員ほか
6月22日（水）～28日（火）
- (3) 市民訪問団（34人）..... 一般公募市民，姉妹都市協会関係者
6月18日（土）～26日（日） 国際プラザボランティアほか

3 滞在中の主な行事（予定）

- (1) 姉妹都市提携15周年記念・姉妹都市関係促進宣言の調印式
姉妹都市提携15周年を記念して、ノボシビルスク市役所において両市長が姉妹都市関係促進宣言の調印式を行います。
- (2) 「サッポロウィーク」の開催
今回初めての試みとして、札幌をノボシビルスク市民に広く紹介するイベント「サッポロウィーク」を開催します。
内容は、市長自ら講師を務める「札幌都市セミナー in ノボシビルスク」や、市民訪問団参加者が茶道や書道などの講師を務める「文化教室」、訪問団とノボシビルスク市民が交流を深める「友好の夜」交流会などが行われます。
- (3) ノボシビルスク市「まちの日」イベントへの参加
「まちの日」とは、まちの創建を市民全体で祝う日（1893年に、シベリア鉄道のオビ川鉄橋建設の際にできたゲーセフカ村が起源）であり、通常6月最終日曜日（今年は26日）が該当します。イベントとしては、市内のオビ河岸通りでの記念セレモニーやレニン広場でのパレードなどが行われます。
- (4) 交流など
市民交流団に参加する市民は、ホームビジットなどを通じて、市民同士の交流の輪をさらに広げます。

4 ノボシビルスク市の概要

- ・位置と面積： 北緯55度02分 東経82度55分 約491平方キロメートル
- ・人口： 約150万人（ロシア第4位）
- ・気候： 厳しい大陸性気候で、冬は比較的雪は少ないですが、寒さが厳しく、夏は乾燥しており30 を超える暑い日もあります。1月の平均気温はマイナス18 前後ですが、時としてマイナス40 ～マイナス45 まで下がる場合があります。
- ・概要： ノボシビルスク州の州都であり、ロシアにおける経済、文化、学術の一大中心地として発展を遂げています。1945年に完成したシベリアのポリショイ劇場と呼ばれる「国立オペラ・バレエ劇場」は、世界最大規模の舞台を誇り、ノボシビルスク市のシンボリック的存在となっています。また、「アカデムゴロドク」と呼ばれる地域に多くの大学・研究機関が集まり、国際的な学術センターとしての役割を果たしています。
スポーツでは、アイスホッケー、スキー、スケートなどのウィンタースポーツが盛んなほか、サッカーは国民的人気があります。
- ・歴史： ノボシビルスク市は、シベリア鉄道のオビ川鉄橋と鉄道駅の建設の際にできた集落が起源と言われています。現在の「ノボシビルスク」という名前は1926年から使われていますが、「新シベリア」を意味しています。
ソビエト政権下においては、シベリア開発の中心地として位置付けられ、政府主導により産業コンビナート、学術施設等が整備され、街の規模はほかに類を見ない速度で拡大していきました。

【問い合わせ先】

総務局国際部交流課 Tel: 211-2032